



昭和三十五年  
全仏事務報告

昭和三十五年  
四月

四月 宗教法人法対外委員会(墓地問題等)故カンボジア国王へ弔電  
十八日 ネパール国王来日出迎  
宗教法人法問題委員会(神宮問題等)  
廿五日 ネパール国王に接見(於東京芝迎賓館)  
セイロン僧団来日出迎 全仏通信合併才五十一号発行  
廿六日 セイロン僧団築地本願寺参拝、全仏歓迎会  
廿七日 常務理事会(収支決算の件等)

五月

四月 仏教復興運動世話人会(於築地サポイ)  
九日 来日セイロン比丘急逝のため石川局長ら大使館を弔問  
十一日 日宗連理事会 英文仏教百科辞典委員会(於東洋大学)  
十六日 国際委員会(委員会運営の件等)  
墓地問題で厚生省へ伺書提出  
十九日 仏教復興運動世話人会(於築地サポイ)  
二十日 常務理事会、理事会(決算承認の件等)  
ブラジル母国観光団来日  
廿三日 宗教法人法問題委員会(神社問題等)  
廿五日 全仏通信才五十二号発行  
廿六日 英文仏教百科辞典理事会  
廿九日 同日と三十日才八回全日本仏教徒会議(於金沢)

六月

市東本願寺別院)  
八日 宗教法人対外委員会(墓地問題等)  
九日 神奈川県仏総会(於川崎大師平間寺)  
十日 自民党との懇談会(東京赤坂プリンスホテル)  
重永潜師を囲む会(於東京銀座三笠会館)  
仏教政治同盟発会式に出席(於東京丸内工業クラブ)  
十四日 農地補償請願のため衆参各議員に面会  
民主主義を守る仏教徒の集いに出席(小石川伝通院)  
十五日 羽田事件に遺憾の意を表明し声明を駐日米国大使へ送る  
十八日 常務理事会(墓地問題、大会決議の具現化等)  
廿一日 セイロン比丘ウイブラサーラ比丘を見送る  
廿二日 全国宗務総長緊急会議(全仏声明草案を練る)  
廿二日 正副各委員長会議(大会決議の具現化の件等)  
廿三日 社会党との懇談会(於衆議院才三会館)  
緊急常務理事会(全仏声明発表)

七月

各政党、報道関係、各宗派府県仏、諸団体、理事以上等へ送付  
廿五日 全仏通信才五十三号発行  
廿九日 才六回世界会議中止の旨世界連盟本部より来信  
二日 埼玉県仏支部長会議(出席(墓地問題等))  
七日 日宗連理事会(全国

八月

會議の件等)  
十五日 NHK主催の海外邦人物故者追悼法要国際放送に協力(於長野市善光寺)  
十八日 国際委員会(大会決議の具現化)  
廿七日 宗教法人法、対外合同委員会(墓地問題等)  
廿八日 社会問題委員会(原水爆禁止運動の件等)  
廿九日 組織教化委員会(大会決議具現化)  
廿九日 趙撲初居士一行来日(世界平和者会議のため)  
三十日 全日仏青高尾山結集に出席(於高尾山薬王院)  
卅一日 民社党との懇談会(於東京麻布都市センター)  
二日 東京仏教団総会へ出席(墓地問題等)  
三日 常務理事会(墓地問題等)  
六日 原爆被災者慰霊祭へ出席(於東京虎門社会事業会館)  
十日 趙朴初居士歓迎会(於東京銀座三笠会館)  
十七日 日宗連幹事会(於築地本願寺)  
二十日 全国宗務総長会議(墓地問題等、於東京西本願寺)  
廿二日 長野県仏講演会へ出張(墓地、新興宗教の件)  
廿六日 静岡、浜松、沼津方面で開催の懇談会へ出席(墓地問題の件等)  
三十日 神奈川県仏福永会長急逝さる

九月

六日 インドネシアより遺骨帰還を歓迎(於芝浦港)  
七日 インドネシア遺骨拝礼式典に参列(於東京市ヶ谷厚生省引揚援護局)  
十七日 関東甲信越ブロック会議へ出席(墓地問題の件、於伊豆修善寺ホテル)  
廿八日 日米修交百年祭へ祝

十月

意表明のため日本仏教徒代表孤峯智瑛禪師を派遣  
二日 同日と三日の両日才五回中央講習会開催(於神奈川県大雄山最乗寺)  
五日 中山理々氏渡印  
六日 墓地を守る東京檀信徒代表者会議(於東京浅草東本願寺)  
十一日 国会議員と懇談(墓地問題、於赤坂プリンスホテル)  
廿四日 墓地問題陳情のため文部、厚生両省及国会等へ請願に行く  
廿五日 全仏通信才五十四号発行  
廿七日 日宗連理事会(於築地本願寺)  
廿九日 京都仏教徒会議へ出席(於京都本能寺会館)

十一月

一日 宗教法人法対外委員会(神社問題等)  
二日 組織委員会(大会決議の具現化等)  
八日 国際委員会(中国仏教徒招請の件等)  
十八日 才九回全日本仏教徒会議打合せ(於横浜鶴見総持寺)  
十九日 公明選挙運動に協力(於国電有楽町、渋谷駅前、浅草寺前)  
廿二日 神奈川県仏役員会へ出席(才九回大会の件等)  
廿五日 パキスタン仏教徒へ贈る観音像開眼式(於東京麻布永平寺別院)  
全仏通信才五十五号発行  
千葉県仏役員会へ出席(於成田信徳会館)  
三十日 孤峯智瑛禪師ワシントンで米大統領に接見  
十二月  
三日 墓地法改正請願書を内閣、法務、厚生、文部各省へ提出  
八日 在日韓国仏教代表組

十二月

国へ出発を見送る(於神戸港)  
十四日 神奈川県仏理事会へ出席(才九回大会の件等)  
十八日 パキスタン大統領へ観音像贈呈(於東京芝迎賓館)  
二十日 同日から廿一日にかけて墓地法改正請願書を参院議長へ提出  
廿二日 常務理事会(墓地の件等)  
常務理事、監事、正副委員長の合同懇親忘年会(於築地本願寺)  
廿五日 全仏通信才五十六号発行  
廿七日 大谷賢雄議員渡西独を見送る

昭和三十六年

一月  
十二日 東京墓地対委員との協議会(於築地サポイ)  
二十日 墓地法改正請願書整理に出動(於参院大谷賢雄議員室)  
廿一日 同日より卅一日まで墓地請願書を衆参各議員へ提出  
廿三日 孤峯智瑛禪師帰国歓迎会へ出席(於赤坂ホテルニュージャパン)  
日中仏懇成立五周年祝賀会へ出席(於東京神田如水会館)  
廿四日 全日仏編修正会へ出席(於麻布八芳園)  
廿五日 全仏通信才五十七号発行  
廿六日 国会議員との懇談会(墓地問題等、於赤坂プリンスホテル)  
同日より組織強化のため四国へ二局長、一部長派遣  
廿九日 神奈川県仏常務理事会へ出席(才九回大会の件、於横浜玉泉寺)  
二月  
二日 A・A問題研究講演会を開催(於丸内工業ク



# 寺院住職に詫び状提出

## 旧学会信者が非行を懺悔

創価学会員によつて無承認強行埋葬の暴挙を受けた東京都内の某寺院住職に対して、本問題の発端となつたA家から謝罪文が寄せられると云ふ事実が有つた。

ことの起りはA家の主人が昨春死亡したのに鑑み、学会員であつた関係上、学会の協力を得て当寺院住職の墓地管理権を全たく無視して強引に埋葬してしまひ今日に至つたのであるが、最近A家の後継者であるT君(十五才)が附近で遊んでいる中に突然の山崩れに遇つて不慮の死を遂げてしまつた。A家一族は悲嘆のどん底にあつて、かつて同家の主人の葬儀埋葬にあつてお寺を無視し、無承認強行埋葬を成し其後も墓参はおろか追善もしないで、全たく放棄して来たからこそこの災難を受けたのだ。そして学会は幸福を唯一の旗印として入会を勧誘して来たけれど、それは単なる方便であつて何らの加護を受けるものではないと云ふことに気がつき、A家族全員は深く反省懺悔し左のような詫び状を当の寺院住職にとどけて来た。

後日のためよつて如件  
昭和三十六年三月二〇日  
右本人A署名捺印  
某寺住職殿

なお、右住職はA家の一族と納得のゆくまで話し合い、学会を脱会して再び当寺院の檀徒になる事を諒承したので、本事件は自然消滅的に解決したわけであるが、全仏にはその後もぞくぞく学会員と寺院側との紛争事例届書が送られて来ており、このほかにも右のような詫び状が添付されて送られて来ているものもある。全仏では同信各位の一層の御協力御支援を望んでいる。

### 福岡県篠栗町に

#### 仏舍利殿近く完成

去る昭和三十一年七月ビルマ仏教会(会長ウ・チャントン氏)より全仏を通じて福岡県仏教会(会長蒲池繁氏)へ仏舍利が贈られたが、このほど福岡県篠栗町の丘陵地帯に仏舍利殿がほぼ完成し近く落慶式典が行われる事になった。なお同仏舍利殿中に、日本仏教八宗祖の掛軸を掲げたいとの強い要望が同仏舍利殿の建設に当初から協力してゐる井上同町長等からされたので、全仏では過般二月八日京都で開催の常務理事会で八宗祖の奉安について然るべく関係各宗派へ斡施の労をとる事に決定したのでこの旨蒲池福岡県仏会長並に井上篠栗町長あて報告した

### 詫び状

私儀亡父某の遺骨埋葬に當つて昭和三十五年三月二十七日貴住職の墓地管理権を無視し、無承認強行埋葬をしたことは誠に申し訳ありません。茲にその非行を心よりお詫び申し上げます。今後は絶対に邪教に迷わされることなく貴本尊に帰依し、貴寺院の尊厳を保ちその慣習を尊重し、檀徒としての義務一切履行を致します。

### 平和の鐘が船出

在印チベット避難民へ  
既報のとおり、在印チベット避

難民へ救援の一助として送られることになつてゐた喚鐘二個(京都東本願寺、横浜孝道教団より寄贈)は送付の諸手續き一切を終り、三月十八日神戸港より海路インドへ向け船出した。全仏では駐印日本大使館へこのむねを通報するとともに、同大使館経由で在印チベット避難民に対しメツセージを送つた。

### 日韓仏教交流につき回答

全仏では在日大韓仏教連合会(会長趙氏)あてに三月三日付公信を以て、韓日兩國仏教徒交流についての議案が、過般大韓仏教曹溪宗才二回定期総会において採択されたので、祝意を表するとともに、韓日兩國仏教徒親善使節の相互交換については、本年四月から五月にかけて京都知恩院、東、西本願寺で夫々宗祖の大遠忌法要が大々的に挙行されるので、今直ちにこれを実現する事は極めて困難である。故に当地における大遠忌法要を終了してから、種々具体的な話し合いを進めて行くことになるだろうと云う二月八日開催の常務理事会の結論を書面で送つた。全仏では一日も早く日韓兩國の仏教徒の交流が再現されることを望んでいる。

### 千葉県仏教会

#### 墓地対策役員会開く

一昨年から再発した千葉県仏教会(理事長熊野竜夫氏)は其の後着実な運動をつづけているが、三月廿五日午後一時より千葉市吾妻町光明寺の事務所で役員会を開催、特に問題な墓地問題対策を中心として全仏から依頼のあつた事例報告書について種々協議を行つた。当日は十四支部の幹部が出席し本部から柳部長が全仏の事業全

般についての報告と墓地問題について協力方の依頼をなし、さらに東京墓地対の林常任委員から墓地に関する一般報告と法律について詳細な説明がなされ、活撥なる意見や質疑があつて本問題の重要性を確認し、最後に熊野県仏理事長から、本年度の本県の事業計画の中に本問題についての地区別の説明会等を開いて万全を期する等の申合せがなされ午後五時三十分有意義に終了した。

### ブラジル母国観光団かえる

ブラジル仏教徒協議会(代表者辻本昇氏)では既報のとおり、十二名の母国観光団を派遣したが、三月八日午前十時横浜港南棧橋接岸の大阪商船「あるせんち丸」にて来日した。一行は一旦宿舎である総持寺にて旅装を解いたのち大阪商船の招待にて都内各所の観光に出発した。その後は孝道教団をかきりに関西各宗本山に参詣したのち、京都東西本願寺にて行われている宗祖親鸞聖人七百回大遠忌法要に参列し三月二十日海路帰途についた。全仏では同町長に対し左のような大谷会長の「歓迎のことば」を送つた。

### 歓迎の辞

このたび遠く幾千里の波濤を越えて母国日本を訪れたブラジル在留邦人の皆さまを心から歓迎いたします。ブラジルをはじめ南米各地の各界において日本人移民の御活躍ぶりはまことに目醒ましいものがあり、南米各界の指導者は皆さまの偉大なる功績に対し、深い敬意と感謝の念を持つて来ております。我々六千万の日本仏教徒は才二次世界大戦を惹起し、そして世界史上まれにみる惨劇をなめたことについて特に深い懺悔の念を

### 大谷よし雄議員の

#### 帰朝談話会

仏教政治同盟(委員長松本徳明氏)では、昨年末西独をはじめ欧米各国を歴訪し、一月下旬帰国した参議院議員全仏顧問大谷賢雄氏の帰朝談話会を二月廿七日午後二時より東京丸の内日本工業クラブにて開き、いろいろ興味深い話をきいた。全仏から理事長以下各局部長等が出席した。

ブラジル在留邦人  
日本観光団長殿

財団法人 全日本仏教会  
会長 大谷光暢

昭和卅六年三月八日

# 昭和三十 六年 豫算等を承認

## 常務理事会、評議員会開

全仏では三月三十日午前十一時より十二時三十五分に亘つて東京築地レストラン・サボイにおいて常務理事会を開催し次の議題を討議し夫々決定された。

(1) 昭和三十六年度事業計画並びに歳入歳出予算案に関する件

先づ太田理事長が挨拶し引続き議案を上提、別所部長が議案の説明をなし審議の結果、万場一致原案通り可決承認した。次いで決算報告について才九回仏教徒会議開催の關係上、評議員会の了承を受けて評議員へ書類にして報告することに決定した。

(2) その他の件

①才九回全日本仏教徒会議の件  
本会議要項を提案し狩野局長より説明があり、これについての意見を聞き、本会議実行委員会において更に検討する事に決定した。

②加盟承認の件

世界仏教協会よりの全仏加盟申込みについては次期常務理事会にて再検討することに決定した。

③墓地問題について

本件につき紛争事例報告書の全仏への提出状況と経理の現況を報告説明し了承した。

④駐日セイロン大使フォンセカ郷のフランスへの転任につき歓迎会開催について

本件については事務局に一任する事に了承確認された。

⑤正力松太郎氏出版(禪と念仏)祝賀会開催の件

本件については発起人を選出し開催することに決定した。

⑥人事の件

門屋大寿(主事) 福井清俊(臨時書記)を新たに採用することを承認した。当日出席常務理事は、太田淳昭、来馬道断、長岡慶信、平林有高、常光浩然、千々和宝夫、神田尚順、竹村教智、有馬清雄、宮谷法合、小林大蔵の各氏

全仏理事会は三月三十一日午後一時より午後二時半に亘つて東京築地本願寺会議室において開かれ次のとおり決定を見た。

(1) 昭和三十六年度事業計画並びに歳入歳出予算案に関する件  
栗本局長より原案について詳細な説明があり万場一致可決確定された。

(2) 才九回全日本仏教徒会議開催に関する件

狩野局長より原案説明がなされ万場一致承認可決された。

倉持秀峰、三原信一、小林大蔵

津田実雄、神田尚順、平林有高、

蒲池 繁、太田淳昭、宮谷法合

佐々木近衛、芳賀達宗、千々和宝

天、摩尼清之、阿部慶昭、増永靈

鳳、山本杉の各氏(含委任状)

全仏評議員会は三月三十一日午前十一時より十二時四十分

に亘つて東京築地本願寺会議室において開催され左の議題について熱心に討議した結果次のとおり承認確定された。

(1) 昭和三十六年度事業計画並びに歳入歳出予算案に関する件

先づ別所部長の開会宣言にひきつづき、太田理事長より昭和卅六

年度事業方針、事務経過についての説明報告がなされ、ついで座長に阿部竜伝氏が万場一致で推薦された。次に栗本局長より昭和卅六年度全仏予算原案につき詳細説明がなされ、これに対し若干の質問があつたが原案通り可決確定した。

(2) 才九回全日本仏教徒会議開催の件

狩野局長より詳細なる提案説明がなされ、これに対して全国寺院に望む全仏としての態度、要留意見等があつたが、大会要項原案通り開催する事を諒承した。

当日出席評議員は

渋谷亮泰、金子正則、松浦克己、倉持秀峰、北之内真竜、蒲池 繁、村沢栄孝、神田尚順、石川存静、木野章忠、熊野竜夫、左瀬淳光、桜井実章、壬生照順(松井代)小野塚潤澄、船口暉子、阿部竜伝、小谷徳水、野村宗春、小林大蔵(代)村上日宣、太田淳昭、栗本俊道の各氏。

才九回大会実行委員会を開催  
組織教化委員会を開催

全仏では四月六日午前十時より組織教化委員会を東京築地本願寺会議室において開催し左の議題について熱心に協議した。なお終つて同日午後一時から築地サボイにおいて才九回全日本仏教徒会議開催実行委員会を開いて種々左議題について協議した。

一、才九回全日本仏教徒会議について  
二、才九回中央講習会について  
三、その他の件

中国仏教代表  
招請は延期  
二月八日常務理事会にて

全仏では二月八日京都西本願寺にて常務理事会を開催し、懸案となつていた中国仏教協会代表招請について慎重に協議した結果左の理由で招請をここ当分延期することに決つたので直ちに国際委員あて報告した。

一、招請時期に予定されている四月上旬より下旬にかけて京都知恩祖大遠、西本願寺の三山とも山はともに法要時期が幅狭することが予想されるので、満足のゆく歓迎に自信が持てないこと

二、折角の来山ならば代表に心ゆくばかりの接待をし、万遺漏なきを期したい。その意味で十分なる計画案を練るためにはかなりの日時を要し、また各宗本山夫々の機関にも諮つた上慎重を期したいこと

出席常務理事は常光、来馬、千々和、木全、野村(小林代)小野塚(平林代)太田、望月、有馬、伊原(官谷代)武田の各師

### 西独から仏教徒来日

大山本総持寺で座禅

西独逸の出身で熱心な仏教徒であるオットー・フォルガー氏がこのほど日本仏教、特に禅に興味を持ち座禅を実践する目的で来日して過般全仏事務局へ挨拶に見え、氏は西ベルリン生れで生粋の独逸人であるが、現在西ベルリンに在るセイロンの故パウルゲ博士の家(仏教徒の家)に住み、高僧シャンディ・パドラ師の高弟にあたる人である。なお氏は単身で西独から欧州各地を巡り、ビルマ、タイ、シンガポール、香港を通つて三月下旬九州に到着し、過日神戸から東京へついたのであるがすべて徒歩で通して来た、きわめて熱心な仏教徒である。来日以來細川量雄師(東京都調布市下石原二四五六)宅に起居を共にして大が、四月四日から七日まで大山本総持寺にて座禅実践に精進した

### 才六回世界仏教徒会議

今秋カンボジアで開催

かねて中止されていた才六回世界仏教徒会議はWFB本部ウ・チャントン会長らの努力により、本年十一月にカンボジアにおいて開催されることに確定したと云う報告が過般WFB本部事務次長より全仏国際局長あてに寄せられた。全仏ではいづれ正式通知があり次第具体的に検討する事になつてい

### 渡米宗教視察団

本年秋に出発

かねてから渡米日本宗教視察団員の選出について協議していた日本宗教連盟(理事長太田淳昭氏)では一応の人選も終えたが、このほど招請先の米國アイオワ大学教授バツハ博士から、招請を予定していた四月頃は都合が悪いので本年秋にしてほしい旨来信があつたので日宗連としては十月頃代表を派遣する意向のようである。

### 世界仏教文化研究所長

R・Lソニー博士近く来日

来る五月九日から二週間に亘つて東京、京都、九州の各地会場において精神文化国際会議が、中外日報社、国際文化交友会理事長中野与之助氏との共催により、世界各國から多数の代表を招いて開催されるが、ビルマ代表として五月上旬来日するR・Lソニー博士がこのほど全仏あて来信があり同会議が終了してから日本仏教界の幹部級の人々と懇談し親交を深めた、また各宗本山も参拝したいから勸誘してほしいと申越して来た。因みに博士はインド人でビルマにおける著名な医者であり数々の医学的著述を新聞等に掲載している。また一方、月刊誌「仏陀の光」の主筆者であり、国際仏教のリーダーとして認められてもおり、現在ビルママンドラレにある世界仏教文化研究所の所長の役にある。

# A・A諸国の大成こそ

## —世界平和への道—

外務省 山田顧問が力説

既報のとおり、全仏では二月二日午後一時から東京丸内の日本工業クラブにおいて「アジア・アフリカ」問題についての研究講演会を、外務省より現顧問山田久就氏(元次官)を講師として招き全仏理事、常務理事、国際委員、東京各区仏教会長、仏婦など多数が出席して開催した。なお山田顧問の講演に先だつて、昨年末インド方面から帰国した中山理々師(全仏国際委員長)の帰朝談があつた。なお山田顧問の講演要旨は次のとおりである。「私はいま直ちにA・Aグループの共通点は何かと云われても十把一打からげにいえないが、かつてはいづれも西欧諸国家の植民地であつたこと、そして一般的には反西欧的感情が強く、西欧に対するコンプレックスが露骨である」と云うことが共通点であると思ひます。ために内政面の遅れが西欧のそれに比べて著しいものがあります。従つてこれらA・Aグループの帰趨と云う事は最も重要視されている問題である。これらが、一方自由主義国家群にあつてループの動きは「世界平和」への道に直接乃至間接につながるものとしてつねに注目されて来ております。このような国際的背景の中にあつて、これらの地域に対する共産主義の浸透は最近とみに顕著になりつつあることは

戒心もつよいが、しかしその前に食う事が先決であると考えている状態でありませぬ。一方大国に対する恐怖心も強い。であるから宗教に対する態度も衣食のつきと云う考へを持つてゐるものが大部分と云つても良いと思ひます。とにかく南アフリカはともかくとして、北部の特に農家などの貧しさと云つたら全くひどい。狭苦しく、きたならしい土間に食器がわずかに散在しているのみと云つた家が多い。私もかつて駐イラン大使として彼の地に赴任してゐたことがありましたが、或る日舟遊に出かけたところある若者が私が日本人とわかると早速話しかけてきたが、彼は上述の面の偉大さを認めて、日本はアジアのホープである、親であり兄であるといひ、心から慕つてゐたが凡らく大部分の人々が日本に対して深い関心を持つてゐることは事実のようです。現代においては世界平和、人類の幸福を渴望しない人は無いでしょう。私は世界平和の達成はA・Aグループの大成によつて成ると思つております。私達は彼等民族の要望を容れて、それを善導する事、そこに彼等の繁栄が成されるのであり、それがあつてはじめて私達の繁栄があるといふ精神を以て進んで行かねばならないと思ひます。要するに日本側の態度としては建設的な考へを、彼等後進国にもたせ、デモクラシーのルールにのつとつて兄弟同様の精神で指導にあたりそして交流を深めてゆかねばならないと思ひます。私はその精神を忘れず日本が努力して行く時、はじめて世界平和の礎石が敷かれていくものと固く信じます。」

際問題について三十分に亘つて和やかに懇談し、午後三時四十分頃散会した。

### 平和を祈念して

戦時中、中国において戦つた関係各部隊の旧戦友に呼びかけ各地にて持廻り大会を開き、旧交を温めると共に日中兩國の戦没者慰霊を行ひ以て両民族の平和と繁栄を祈る趣旨で今春発足した中観會(代表山崎良順氏)では同会総会を兼ね平和を祈念して中国へ贈る観音像の開眼並に戦友会同慰霊祭を全仏後援により四月九日午前九時より東京浅草寺にて開催した。開眼並に慰霊法要は浅草寺管首清水谷恭順大僧正導師のもと厳かに挙行され、終つて増上寺法主権尾弁匡大僧正の記念講演があつた。この日全仏から太田理事長をはじめ各局部長主事らが焼香芳々参列した。

なお、右観音像は日中の平和を記念して中国城講観音廟内に奉安されることになつてゐる。

### 全仏推薦

#### 「ビルマの墓標」

鈴木 鍊成師 著

本書は才二次大戦中ビルマ戦線に転戦した著者が幾多の戦友の霊を慰めるために祈りをささげて記きしるした巡礼の書である。著者は戦争の空しさを訴えるとともに南方仏教や同地方の風土をくまなく探つてゐる。

定価一〇〇円 美本

発行所 東京都台東区北清島町 日蓮宗務院

NHKがウエサーカ特集放送  
日本放送協会(NHK)では五月廿四日のウエサーカデー(仏陀生誕、成道、入涅槃等を祝う日)に東南アジア各地へ向けてウエサーカ特集放送をする。

### 仏旗をかかげましょう

- 中旗(三、五尺×二、三尺) 三六〇円
- 小旗(一、八尺×一、二尺) 九〇円
- 輪袈裟 五〇〇円
- レコード 三五〇円

あゝこのよるこび(仏教徒の歌)裏面は「法のみやま」  
仏旗、レコード、輪袈裟はいづれも実費  
お申込は 全日本仏教会

### —あとがき—

△桜の委節も早や過ぎ酷熱の太陽がギラギラと輝き始めて来ました。  
△全仏も新年度を迎え捲土重來の意気に燃え仏教界の内蔵する諸問題と取組んでおります。各位の相変らずの御支援御協力を念願しております。  
△墓地問題については各位の特段の御協力によつて進展しておりますが、なお一層不断の御協力を切望いたしております。  
△町村仏教会等での諸計画を御通報頂ければ幸甚。編集子は鶴首してお待ちしております。(か生)